

くぜ 久世たかひろ

働き盛りの
44歳

● 教育の質の向上

その子の良さを活かす! 学校と子どもたちが真剣に向き合える環境づくりをします。

● 行財政改革の推進

大切な税金の用途は明確に!
正確な評価による事業展開の提案をします。

● 子育て支援の充実

子どもを安心して産むことができるよう、各種子育て環境の整備をサポートします。

● 福祉の充実

行政による対策に加えて、地域の力も活用した取り組みを進めます。

● 防災体制の強化

南海トラフ地震は身近な問題。防災体制の強化や緊急事態の備え等、現実的に考えて取り組みます。

● 産業の発展

企業誘致と起業支援。事業所と地域とが共存共栄できるしくみをサポートします。

政治への考え

一、市長提案には、是々非々で挑みます。

「是々非々とは」
良いことは認めるけど、認められない部分は絶対に譲れないという意味。

一、取り組むべき課題の放置は大嫌い。

一、対話を大切に、さまざまな立場の意見を聞いて、納得して決断をします。

この度の市議会議員選挙で
4回目の当選を目指します。

みなさまのご支援をよろしくお願いします。

久世孝宏

久世たかひろ 略歴プロフィール

市議会議員活動

- 平成19年 半田市議会議員 初当選(32歳)
- 平成23年 2期目当選
- 平成27年 3期目当選 議会選出監査委員
- 平成28年 半田市議会 副議長
- 平成29年 半田市議会 議長(半田市制80周年)

地域活動

- 成岩第三区 コミュニティ推進協議会 会計(H25)・副会長(H30)
- 成岩第三区 北地区 副総代(H28) ■成岩第三区 顧問
- 半田市消防団員(鴉根分団) ■祭礼 成岩南組 祭務長(H29)
- 保護司 ■半田市保護区協力雇用主会役員 ■半田鉄工協同組合
- 半田ライオンズクラブ ■(元)公益社団法人半田青年会議所

プロフィール

- ・昭和49年 名古屋市千種区に生まれ、現在花園町に住む
- ・名古屋大学 工学部 分子工学科卒業/名古屋大学 大学院 工学研究科 分子科学工学専攻修了
- ・(株)東海理化を退社し 県議会議員 加藤精重の秘書に就く

●家族/妻、子ども4人[長男(14歳)・長女(12歳)・次男(9歳)・次女(5歳)]

●趣味/テニス、野球観戦 ●座右の銘/プロ意識

●性格/[自己分析] まじめ、実直

[友人分析] とてもまじめ、誠実、隠れ情熱家、子煩悩

【オフィシャルサイト】 <https://t-kuze.com>



若さから強さへ。
決意の4期目に挑む!!

シール
18×12

中学生とともに、私たちのまちについて考える。

3期12年間、みなさまのお力添えをいただきながら半田市議会議員として懸命に活動して参りました。4人の子を持つ父親にもなりました。初当選時は幼かった長男も、今や中学3年生。随分大きくなったなと時の流れを感じます。近く迎える「令和」の新時代に地域を支える子どもたち。そこで立志15歳を迎える長男や友人たちと語らいながら、「私たちのまち」について一緒に考えてみました。これからもこのように、子どもからお年寄り、またさまざまな立場の人たちとの丁寧な対話を通じて、その声を自身の基本方針や政治理念にしっかりと反映していきたいと考えています。



市政について、市長や市議会議員の仕事、議会の役割って知ってるかな？



ぼんやりとしか知らなかった子どもたちに、わかりやすい言葉で話します。

観光

- 半田運河は風情があっという場所だね。
- ポケモンスポットで人を呼び込めるといいな。
- 南吉だけじゃない名物が欲しい!
- 半田は、観光客が常滑や南知多へ向かう途中に立ち寄るまち。観光のバリエーションが少ないからかな。
- クールジャパンを好む西洋人を意識した観光地づくりはどうだろう? 赤レンガはいいよね。



息子こうせい



りょうた君

- 遠方の人に半田と言っても通じない。知名度が低い……。
- グラウンドなど運動する場所はあるけれど、ワクワクするようなプラスαの遊び場がない。
- 常滑や名古屋に遊びに行きたい。
- まちの発展は常滑に負けてる……かな。

発展



えみりちゃん

私たちのまちについて自由に話しました。

学校



あさとちゃん

- 近年定められた半田市の部活動規定には戸惑いも……。
- 一方、学校の先生の業務多忙は子どもたちも感じるどころ。
- 学校の部活動備品(例えば楽器)の老朽化や不足
- 半田にはいろんな種類の高校があるのがいいね。

はるき君



■青山武道館から青山中学校へと続く散歩道「長泥の径」通称ナガトロは僕たち、私たちが好きな場所。地域のみんなでちゃんと整備して青山の名所にしたいよね。

僕たちも協力します!

好き!

住む

- 半田は住みやすいと思う。理由は、田舎でもなく、都会でもなくほどよいと感じるから。ちょうどいいまち。
- 転居を経験したので、地域の人にあいさつをしやすい地域だなと感じる。
- 生まれたまちだから大切だしずっと住んでいきたいな。

これからも半田市に暮らす人々の明るい今と未来を願いながら、地域のみなさんと丁寧な「対話」をしていきたいと思っています。

まちの発展

商業の場面で長く知多半島の中心的な役割を担ってきたと自負のある半田市も、セントレア開港以降その立地からめざましい発展を遂げている隣接常滑市に押されているという印象を子どもたちは抱いているようです。商いの活性は、地域全体の活性にもつながります。半田市の商環境を的確に捉えた半田市らしい再発展像を描き、そのための具体策を考え提言していきたいと思ひます。

まちの環境

子どもたちは、半田市を住みやすい地だと感じているようです。祭り文化が成す、人と人との温かい交流。田舎でもなく都会でもないという言葉に象徴されるちょうどいい住み心地。特に半田市南部は各種交通アクセスも良い。まちの発展策に住む人が「つながる」という視点を融合させ、半田市が好きだからずっと住んでいたい、半田市に住んでみたいと思える人が増えたらいいと考えます。福祉や子育ての充実も影響を与えるテーマ。しっかりと取り組んで参ります。

